



「ペルソナ」

学年主任 對馬 洋介



廊下を歩いていると、授業中の様子が本校は見えます。真剣な眼差しで先生の話の聞いている、問題を解いている、何かに真剣に取り組んでいる姿は実に素敵です。一方残念なことではありますが、「私語」と呼ばれる近隣の席の生徒とのお話に興じているものがあります。

そもそも「ダメなものダメ」なのですが「なぜ授業中に私語をしてはならないのか」を改めて考えてみたいと思います。

【私語】とは、ある辞書によると、

- 1 ひそかに話すこと。ささやくこと。
- 2 公の場であるにもかかわらず、自分たちだけでひそひそと勝手な話をする事。

1の意味でしか「私語」というものを認識していないものは、俺(私)は大きな声を出しているわけではないという理由で、それほど迷惑をかけている認識がありません。しかし、大切なのは2にある「公の場」という言葉です。漢字からもわかる通り「私語」は「プライベートトーク」なのです。

それは電車内の携帯電話でおしゃべりをしている人に苛立ちを感じるのに似ています。携帯電話でのおしゃべりを耳障りと感じるのは「公共の場」に「私的」なものが流れ込むからであり、物理的な音の大小ではないのです(実際に地下鉄の音のほうがうるさいと私は思います)。授業に参加するとは、公私の使い分けができると同義であり、ゆえに「私的」な話を生徒が持ち込むことは許されないので。

タイトルの「ペルソナ」は「persona」と書きます。英語の「person(人)」の語源になった言葉とされており、ラテン語で「仮面」を意味します。元々は演劇等で使われていました。そこから俳優が演じる「役割」を意味するようになり、やがて「自己の外的側面」という意味に変化していきます。つまり、ペルソナは「他人から見た自分」という意味です。

提唱者で心理学者のユングは「仮面を上手に着脱できるようになること」が大切であると説いています。

教室にて先生のことを思わず「お母さん」と呼んでしまう小学生はかわいいかもしれませんが(言った本人もたいてい赤面する)が、「授業用ペルソナ」を着脱した自覚もないまま授業という舞台に突如現れる大根役者は実に不愉快なのです。

《夏の課題：自分だけの生物図鑑を作ろう》

理科科から中学1年生に与えられた夏期課題は「自分だけの生物図鑑を作ろう」でした。これは、自分でその生物の写真を撮り、皆に紹介するというものでした。理科科谷戸先生が選出のものを紹介したいと思います。



1.ウミケムシの生態

- ウミケムシは、暖かい海を好み、主に日本の本州中部以南、太平洋西部インド洋の海底に生息。
- 国内では、生息数が少い。→ウミケムシの絶滅、温暖化の影響で、北の方の海でも見られる。
- 朝より夜にかけて活発的。
- 食性は肉食。ゴカイの死骸を食べる。



2.ウミケムシの生体特徴

- 体の側面には毒を持つ糸状の毛がびっしりと生えている。
- 体長はだいたい10cm程度。
- 分類学上の分類は、動物門・節足動物・ウミケムシ目・ウミケムシ科に分類される。また、ゴカイの仲間。

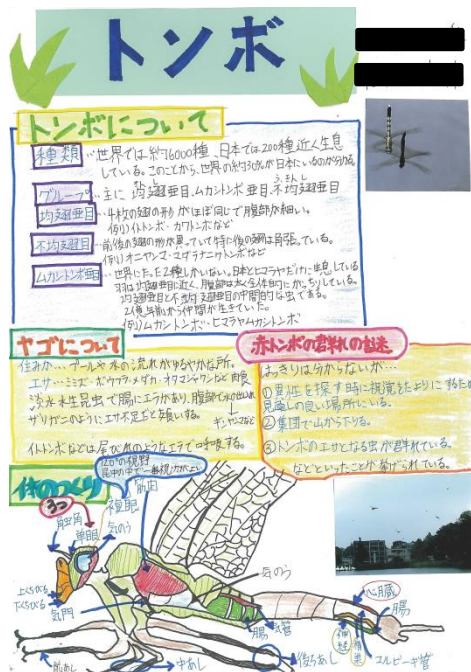
1 ■■■ 【ウミケムシ】

・ニホントカゲ ・ヒガシニホントカゲ



- 開尾鱗: 全長15~27cm。幼鱗は青く、体色が黒く暗褐色で5本の明色の縦線がある。オスの成鱗は褐色で、体側面に茶褐色の太い縦線がある。繁殖期のオスは側頭部が赤味、腹部がなくなる。
- 生態: 奥山や山地にある巨樹の底の斜面等に生息している。餌にしているのは昆虫、クモ、甲殻類、蛙等である。果物を食べることもある。

1 ■■■ 【日本のとかげ】



1 ■■■ 【トンボ】



1 ■■■ 【ミゾシダ】